

2022年10月3日
日本銀行富山事務所長
田中英敬

短観（22/9月調査、富山県分）の調査結果を受けて

- ・ 本日、短観（22/9月調査、富山県分）の調査結果を公表しました。富山県内の調査対象企業は約100社ですが、今回も回答率は100%となりました。これまでと変わらぬご協力をいただき、本当に有難うございます。

1. 全体感

- ・ 今回の調査結果をみると、業況判断はやや慎重な見方が目立つ一方で、売上高・経常利益・設備投資は引き続き堅調な計画となりました。

全体感としては、新型コロナウイルス感染症が社会・経済活動を制約し下押しする影響は、今春以降、緩やかに後退しているほか、既往の半導体不足や上海ロックダウンの影響といった供給制約が緩和しつつあることから、内外の需要・受注は持ち直しの動きが続いています。もっとも、これまでの原材料高・燃料高の価格転嫁を進める動きが引き続き増えつつある一方で、価格転嫁が難しく採算悪化を訴える声も根強いほか、価格上昇による販売数量の下振れ懸念を指摘する声も一部にみられています。

- ・ 引き続き原材料高の影響や価格転嫁を進める動きが注目されるほか、このところ先進国経済を中心に世界経済の見通しが下振れていますので、県内企業への影響をしっかりと注視する必要があります。

2. 業況判断・事業計画

- ・ 以下、やや詳しくみていきます。

（業況判断）

- ・ 全産業の業況判断は、前回調査の0から▲4に悪化しました（2022/3月以来2期振りの悪化）。先行きは▲6と悪化が続く見通しです（先行き悪化は6期連続）。
- ・ このうち製造業は、前回調査のプラス8からプラス4に悪化しました（2021/12月以来3期振りの悪化）。先行きも悪化する見通し（2022/3月以来2期振り）です。内外需要が持ち直す動きが続いていますが、原材料高

による採算悪化の影響などが重石となっています。

- ・ 非製造業は、前回調査の▲7から▲10に悪化しました（2022/3月以来2期振りの悪化）。非製造業でも内外需要の持ち直しから業況を改善させる先がみられますが、原材料高の悪影響を指摘する先があります。先行きは判断を改善・悪化させる先が交錯して、横這いとなる見通しです（先行き悪化見通しとならなかったのは2021/3月以来は6期振り）。

（売上高）

- ・ 2022年度の売上高は、製造業・非製造業ともに2年連続の増収計画を維持しました。新型コロナウイルス感染症が社会・経済活動を制約し下押しする影響が後退しつつあることや、供給制約が緩和しつつあることから、内外の需要が持ち直していることが背景となっています。既往の原材料高・燃料高を価格転嫁しようとする動きの成否は区々ですが、全体では増収要因となっています。

（経常利益）

- ・ 2022年度の経常利益は、全産業では4年振りの増益に転化する計画となりました。国内外需要の増加に伴う増益効果に加えて、原材料高・燃料高の価格転嫁の奏功による採算の改善、為替円安の利益押し上げ効果が寄与しています。もっとも、仕入価格上昇から採算悪化を訴える先も引き続きみられている状況です。

（設備投資）

- ・ 2022年度の設備投資は、2年連続の増加計画です。内外需要の持ち直しを背景に、能力増強・省力化投資や、デジタル・環境対応投資などが計画されています。

以 上